

**製品名: PLC  $\gamma$ 2 (リン酸化 Tyr753) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05288**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	148kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PLCG2
別名	PLCG2; 1-phosphatidylinositol 4; 5-bisphosphate phosphodiesterase gamma-2; Phosphoinositide phospholipase C-gamma-2; Phospholipase C-IV; PLC-IV; Phospholipase C-gamma-2; PLC-gamma-2
遺伝子 ID	5336.0
SwissProt ID	P16885
免疫原	抗血清は、ヒト PLCG2 の Tyr753 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 721-770

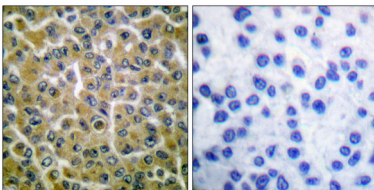
## 背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、カルシウムを補酵素として、1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール 4,5-ビスリン酸から 1D-ミオイノシトール 1,4,5-トリスリン酸 (IP3) とジアシルグリセロール (DAG) への変換を触媒する膜貫通シグナル伝達酵素です。IP3 と DAG は、成長因子受容体や免疫系受容体からのシグナルを細胞膜を介して伝達する上で重要なセカンドメッセンジャー分子です。この遺伝子の変異は、自己炎症、抗体欠損および免疫調節異常症候群、および家族性風邪自己炎症症候群 3 で発見されている。[RefSeq 提供、2014 年 3 月],触媒活性: 1-ホスファチジル-1D-ミオイノシトール 4,5-ビスリン酸 + H(2)O = 1D-ミオイノシトール 1,4,5-トリスリン酸 + ジアシルグリセロール。補因子: カルシウム。機能: セカンドメッセンジャー分子であるジアシルグリセロール (DAG) およびイノシトール 1,4,5-トリスリン酸 (IP3) の生成は、活性化ホスファチジルイノシトール特異的ホスホリパーゼ C 酵素によって媒介される。これは膜貫通シグナル伝達において重要な酵素である。PTM: チロシン残基がリン酸化されている。リガンド誘導による様々な成長因子受容体および免疫系受容体の活性化により、ホスホリパーゼ活性が上昇します。類似性: C2 ドメインを 1 つ含みます。類似性: PH ドメインを 1 つ含みます。類似性: PI-PLC X ボックスドメインを 1 つ含みます。類似性: PI-PLC Y ボックスドメインを 1 つ含みます。類似性: SH3 ドメインを 1 つ含みます。類似性: SH2 ドメインを 2 つ含みます。、

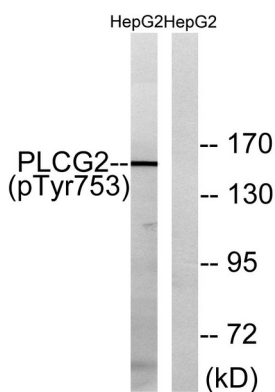
## 研究分野

イノシトールリン酸代謝、ErbB\_HER、カルシウム、ホスファチジルイノシトールシグナル伝達システム、VEGF、ナチュラルキラー細胞を介した細胞傷害、B 細胞抗原、Fc イプシロン RI、Fc ガンマ R を介した貪食、白血球経内皮遊走、神経栄養因子、コレラ菌感染症、ヘリコバクターピロリ感染症における上皮細胞シグナル伝達、癌の経路、神経膠腫、非小細胞肺癌。

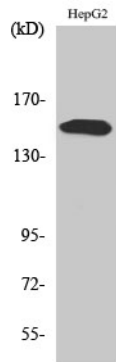
## 画像データ



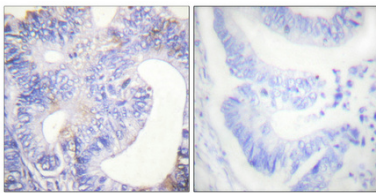
PLCG2 (リン酸化 Tyr753) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



Na3VO4 0.3 mM 40°処理した HepG2 細胞ライセートの PLCG2 (リン酸化 Tyr753) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 PLC $\gamma$ 2 (Y753) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。